

【2004年度調査報告】

長崎・平戸調査報告

(1)調査日程：2005年2月23日～2月28日

(2)参加者：荒野泰典（立教大学教授）、海原亮（住友史料館研究員）、江守秀樹（立教大学大学院）、及川将基（立教大学大学院）、田中葉子（立教大学大学院）。

(3)調査報告

2月23日（水）

08:25 羽田発（ANA661）

10:20 長崎空港着。長崎市内へ移動、昼食。

13:00～17:00 長崎市立博物館：捕鯨・おくんちでの鯨の曳物関連の史料調査・撮影（荒野・田中）。

県立長崎図書館：捕鯨関連の史料調査・撮影（江守・及川、荒野・田中合流）。

宿泊）ホテルモントレ長崎（長崎市大浦）

2月24日（木）

10:00～17:00 県立長崎図書館：捕鯨関連の史料調査・撮影。海原合流。

17:00 県立長崎図書館出発。

20:15 生月到着。

宿泊 民宿鯨見荘（生月町）：宿は日草鼻の上の小高くなった場所にあり、館浦の山見にあたる。

宿の下の平地（現在コンビニエンスストアがある周辺）に鯨組の納屋場が設けられていた。

夕食時、民宿を経営している立石さんに生月の漁業や島の生活について話を聞く。

2月25日（金）…生月調査

館浦

08:30 潮見神社：生月大橋のたもと、潮見崎にある。壱岐の捕鯨突組の祖磯部弥市郎の子弥太郎が明暦2年（1656）に創建したと伝えられる。祭神潮見七郎権現。金毘羅をまつる石祠あり。

09:00～10:00 生月町博物館島の館：学芸員中園成生氏に挨拶。

生月北部

10:00 鞍馬鼻山見跡：中園氏に案内していただく。草が生い茂っているが小平坦地が確認できる。

目の前の海上に網代あり。御崎の納屋場の出崎（納屋場自体は見えない）、平戸島、度島、的山大島、大濬鼻、鯨島が見渡せる。鞍馬鼻はほかの山見から連絡のあつまる本部山見にあたるか。

10:30 大濬鼻山見跡：大濬鼻灯台より周囲眺望、大濬鼻の山見跡探索。

10:50 旦那山山見跡：海側に石垣が積まれているが、牛の放牧時の転落防止用。山見跡から大碇鼻は見えない。

11:30 御崎納屋場跡：益富組の本拠地。現在は埋め立てられアスファルトが張られているが、昭和初期の台風で流されるまでは護岸の石垣などが残っていた。享保14年(1729)に益富組が館浦より納屋場を移し、明治7年(1874)まで利用される。加工解体が行われる納屋場と、船や道具の修理が行われる前作事場、濡れた網を干す網干し場などが複合していることが特徴。轆轤は八基設置。納屋場は大正～昭和初期に行われた銃殺捕鯨にも使用された。

御崎（岬）神社：祭神事代主大神。由緒不明。享保年間に恵比寿神社が合祀される。納屋場を見下ろす位置にある。石祠の屋根に益富組の船印(菱に丸)と紋(違い枳)が刻まれている。

11:50 古賀江：御崎のひとつ南側にある浦。益富組の網干場跡がある。網干場として利用された石畳の一部が残っており、陽光を受けた敷石は触ると温かい。

網は1反(1枚)18尋(32m)四方。それを38反連結して2艘の双海船で張った。

壱部

12:10 白山神社：寛永2年(1625)平戸安満岳に鎮座していたのをキリシタン鎮定のため現在地に移す。享保10年(1725)益富又之助、元祖又左衛門の祈願により社殿を再建。祭神は伊邪那岐神・伊邪那美神・紀久理姫神。四代益富又左衛門正真が寛政5年(1793)に寄進した鳥居がある。正月2日には勇魚取唄が奉納される。

鯨恵比寿：鯨の上に恵比寿が乗っている石像。鯨には網がかけられている。岬神社に鎮座していたという伝承もある。

12:25 益富家住宅：奥行きのある邸宅を塀の外から見学。敷地内に鳥居が見える。隣家は山縣宅。

12:45 住吉神社：鳥居に「益富忠左衛門正昭 寛政九年丁巳夏五月」との銘がある。忠左衛門正昭は三代又左衛門の隠居時の名と考えられている。益富又左衛門顕彰碑あり。

館浦

13:30 千人塚：キリシタン殉教関連遺跡。正保2年(1645)平戸藩は熊沢作右衛門を生月に派遣、多くのキリシタンが殉教した。そのときの死者を埋葬したのが千人塚だという。

法善寺：浄土宗。常楽寺末寺の宝樹庵(曹洞宗)が前身。天明5年(1785)三代又左衛門によって大規模な改築が行われた。力士鯨太左衛門の墓あり。墓地の高台からは館浦が一望できる。

14:00 ~ 18:00 島の館：中園氏に解説していただきながら展示見学、山県家文書の史料調査・撮影。

19:00 夕食 中園氏にご一緒していただく。

宿泊) 同上

2月26日(土) …平戸調査

08:30 平戸へ移動。

09:00 ~ 12:00 松浦史料博物館：館長木田昌宏氏に挨拶。捕鯨関連の史料調査・撮影。

市内散策途中に、鯨を売っている店を見つける。

昼食後、川内へ向う。

13:50 川内岬展望所：九十九島、平戸大橋、生月まですばらしい展望。ものすごく風が強い。

川内

14:15 鄭成功居宅跡：鄭成功は7才まで平戸に居住、手植えのものと伝えられるナギの木が生えている。金毘羅神社の境内に案内板がある。少し上ったところに川内観音堂、その側に媽祖像がある。観音堂では、7-8人のおばあさんが集まり読経らしきことをやっていた。

川内は、漁港でかまぼこのまち。県道沿いにはかまぼこ屋が立ち並び、店の前を通っただけで客引きにおばさんたちが出てくる。

14:30 オランダ商館倉庫跡：港の入口のはずれのあたりにある。川内は大型帆船の母港として平戸港より良好であったため、副港として利用されていたという。建物についてはあきらかではない。近くに「オランダ井戸」と呼ばれる井戸があり、つい最近まで利用されていた。大型の楕円形の井戸、現在はコンクリートで周りが固められている。近くにもう一つ井戸がある。

14:45 鄭成功廟：港の入口の高台にある。展望台からの眺めはよい。

15:00 鄭成功児誕石：平戸側にすこし戻った浜にある。鄭成功の母田川マツが潮干狩りをしていたときに産気づき、この岩にもたれて鄭成功を生んだと伝えられる。丁度、潮が引いており目の前に干潟が現れていた。

15:15 紙漉の里：日本ではじめて朝鮮陶工が開いた中野窯のあったところ。慶長3年(1598)松浦鎮信が朝鮮から連れてきた朝鮮熊川の巨関に開かせた窯という。陶器から磁器焼成に移行する過渡的な窯と考えられている。完成品はあまり出土しない。慶安3年(1650)頃三川内(現佐世保市)に移転したと考えられる。近くに皿焼窯の跡がある。

地名は「紙漉」で、昭和初期まで手漉き和紙の生産が行われていた。現在は、紙漉と焼き物を体験学習のできる施設として整備されている。ここで焼き物を作られている吉崎氏に、資料室・皿焼窯を案内していただく。

平戸市街

16:45 高野山最教寺：慶長12年(1607)松浦鎮信建立。西の高野山といわれる。鎮信の墓あり。鯨の供養塔2基あり。

17:35 皿川/申川：近代捕鯨植松組の納屋場跡。平戸大橋手前の南側の浜。近くに居住されている方に道を尋ねる。子供のころ(昭和25~30年頃?)鯨のひげ(ひれ?)で水をかいて遊んだとのこと。その当時、捕鯨はすでにやっていたいなかった。ここでの最後の水揚げは昭和14年頃。石垣・轆轤・納屋も以前は残っていたが今はない。

18:00 緑ヶ丘神社：明治23年(1890)に三社大明神と牟田の御神を合祀。三社大明神は郷人の鎮守で、

貞享3年(1686)建立の延明寺(後の瑞岩寺)が廃寺になった後、山門の鎮守として残っていたもの。牟田の御神は安永7年(1778)松浦誠信の側室栄が祠を中の崎に奉祠したものといわれている。子授け、安産の神として崇敬を集めている。

鯨の供養碑「鯨魂冢」あり。片栗粉をはたいて判読。効果観面。

宿泊) 平戸洋風民宿チャペル・イン・フィランド(平戸市崎方町)

2月27日(日)…平戸調査

8:20 田助港: 宮ノ町組本拠地

浜尾宮: 海に向かった社。文政3年の鳥居あり。安永7年(1778)司馬江漢が記録したハイヤ節にまつわる発祥の地碑がある。

丘上の金刀比羅宮、稲荷大社から港を見渡す。

8:50 田ノ浦: 山見の場所。延暦2年(804)空海が唐に向けて出港した場所として、大師堂・腰掛け石・もやい木・唐井戸、高台には巨大な渡唐大師像がある。度島、的山大島が間近に見える。入江は現在では田んぼになっていた。

9:00 須草: 江漢の「西遊旅譚」に納屋場の記載あり。現在は小さな漁港。生月島が間近に見える。大婆鼻と鞍馬鼻山見の合図も見える距離か。

10:00 神崎教会: 明治13年(1880)黒島から信徒6家族が泊ノ浦(現田ノ浦温泉海岸)に上陸したのが、上神崎教会の始まりといわれる。

10:25 富春庵跡: 建久2年(1191)栄西が二度目の入宋から臨済宗を継承しての帰途に、葦浦(古江湾)に上陸して小庵を設けたと伝えられる。座禅石あり。富春園はこのとき持ち帰った茶の実を植え製茶の法を伝えたといわれる。松浦家は篤くこれを保護。

竜燈山千光寺: 臨済宗。富春庵を藩主棟(雄香)が維持料を出して元禄8年(1695)寺院とした。松浦武四郎が一時居住していた。武四郎は、天保10年(1839)田助在曲村の豊増勇作という人物の世話で平戸雄香寺の大宜和尚、普門山の西邦和尚に参禅し、宝曲寺の住職となり天桂寺を兼任する。天保13年(1842)に木引(粉引)村の千光寺に移る。

西海岸を南下。獅子の集落の上の道路から五島の宇久島の島影が見える。

11:40 根獅子(ねしこ)

平戸市切支丹資料館: 平戸の隠れ切支丹関連遺物を展示する資料館。

おろくにん様: 永禄9年(1566)に処刑された人物。根獅子は生月島里免上川とともに切支丹宗門改奉行の押役がおかれた場所。根獅子の砂浜で多くの処刑が行われた。寛永12年(1635)70数人がとらえられ処刑される。この遺体を葬り聖地とした「うしやきの森」では、いまでも信者は素足でお参りするという。

うしやきの三界万霊様: 昭和25年頃うしやきの森で根獅子小中学校を造営中に出土した、多くの人骨を埋葬したもの。根獅子小中学校は移転し、跡地は公園となっていた。

昇天石: 処刑された切支丹が天国へ旅立ったという海中の岩。干潮時には姿を現すようだが、まだ潮が引ききっておらず見えなかった。

- 12:20 小麦様の墓：「小麦様」とは、慶長3年(1598)松浦鎮信が朝鮮からの帰国の際に連行し妾とした女性。一説には朝鮮王朝の縁者とも。西口松浦家の祖松浦蔵人信正の母。その領地がここにあったため、後生ここに隠棲し、墓がここにあるとの事。2基ある墓の内ひとつは侍女のものらしいが、どちらが小麦様のものかは分からないという。途中、紐差教会に寄り、宮の浦まで南下。
- 14:30 宮の浦：橋で繋がった日本最西端の町とのこと。沖の島に志自岐神社沖の宮「沖都宮」あり。丘の上に志自岐神社地の宮「辺都宮」あり。
- 15:25 志自岐山阿弥陀寺：真言宗。
志自岐神社：式内社志自岐神社は上宮、中宮、地の宮、沖の宮、別当寺（円満寺）の総称。仲哀天皇の皇弟、十王別王を祭神とする。肥前国における式内三社のひとつ。山頂に上宮がある。中宮にあたるところまで登る。
- 16:30 ジャガイモ焼酎じゃがたらお春の製造元、福田酒造の「じゃがたらお春博物館」にいくも閉館。仕方なく福田酒造の直売店に寄る。
- 16:40 前津吉：納屋場があった場所
長泉寺：鯨供養五重塔あり。周辺三ヶ村の魚類、鯨魂供養のため檀家の寄付によって元文4年(1739)に住職海純が建立。高さ539cmという大きなもの。
津吉港：佐世保へ日に4往復の船が出ている(所要時間45分)。恵比寿神社、弁財天あり。
坊山：港南側の山。生島組石塔墓（明正院の墓）を探したが見つからず。
木ヶ津教会、宝亀教会に立ち寄り、宿へ戻る。

宿泊 同上

2月28日(月)…呼子調査

- 08:05 平戸でザビエル記念聖堂、宗陽公の墓を見学後、呼子へ移動。
- 10:20 名護屋城博物館：表敬訪問、捕鯨関連の史料調査・撮影。
午後、博物館にて捕鯨にまつわる労働歌を保存する会（指導中尾イキ子、80代後半の小川島の方）のビデオ鑑賞後、学芸員安永氏の案内で史跡踏査へ。

加部島

- 14:10 小浜解体所跡：絵葉書となった鯨解体の現場。田島神社境内にあたる。轆轤を載せていた石垣が残っている。
観光物産館：捕鯨関連資料があるとのことだが、あいにく閉館日。
- 14:25 田島神社：天保3年(1832)中尾組六代甚六奉納の石灯籠、小川島捕鯨組寄進の鳥居がある。
- 14:40 津坂山見：加部島北端で、小川島・加唐島と相対する位置にある。
- 15:05 片島解体所：小浜と呼子大橋の中間あたり。銃殺捕鯨の納屋場が一時的におかれた場所。

呼子

- 15:20 中尾家旧宅：後に山下酒造の建物となったが、今は廃業している。毎年修繕費がかさむの

で、市が買い上げることも視野にいれている。2002年呼子町の重要文化財に指定された。

15:30 石上山龍昌院：宝暦5年(1755)に三代甚六が鯨一本の代価で建立した寺。鯨の供養塔2基あり。中尾家の菩提寺は願海寺であったが、養子に入った三代甚六は元々の宗旨が異なっていたため、新たに寺を建てた。寺の入口に柵で囲った場所があり、前の方に中尾家の寄墓が、後方には供養塔2基がある。

16:00 生島家の墓と鯨供養碑：生島家の墓は手入れがされている。生島家についての調査は行っていないとのこと。

安永氏と別れ、呼子から博多へ向う。博多駅近くで田中、海原と別れる。

19:50 福岡空港発(ANA270)

21:20 羽田着、解散。

調査結果

- ・ 長崎県立図書館所蔵史料：「青方文書」のほかにも「山口文庫」（老岐の民俗研究家山口麻太郎による、筆写を中心とした資料群）に捕鯨関連史料がまとまって有ることを確認。
- ・ 益富組の文書「益富家文書」：福岡市中央図書館にて整理中。鳥巢京一氏中心。
- ・ 益富組の文書「山県家文書」：生月町博物館島の館にて保管。629点。福岡大学総合研究所が整理、目録作成、資料の一部を翻刻。
- ・ 生月での捕鯨関連資料・史跡：文書・道具類などは島の館にて一括保管。御崎の納屋場跡・網干場跡には解説板が建っているが、山見跡については整備されていない。なお『生月町史』（1997年）に捕鯨関連の史跡がまとめて紹介されている。
- ・ 平戸での捕鯨関連資料・史跡：松浦史料博物館に文書を中心とした資料群、平戸城に銚と銃の所蔵あり。納屋場跡・山見跡についての整備はされていない。『平戸市史民俗編』（1998年）に平戸の捕鯨についての論考を載せるが、市内の捕鯨関連史跡についてはまとめられていない。

(文責 田中葉子)